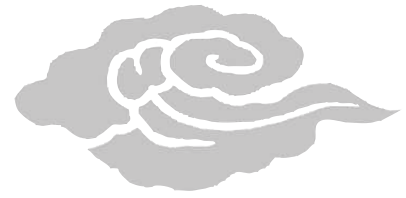


建設会報 いずも



No.131

2018年

新春号



表紙の言葉



ワンちゃんは忠義の象徴

えと文 / 渡部良治

今年は戌年、犬は古くから逸話や昔話に登場し、多くの人に親しまれてきました。

渋谷の駅前で主人の帰りを7年間待ち続けたハチ、西郷どんの散歩のお供をしたツン、花咲か爺さんに宝の在り処を教えたシロ。

名前はありませんが、桃太郎の供をした犬は、犬、猿、雉の中でも一番に家来になり、鬼ヶ島では戦略を忠実に実行し、忠義の象徴とされています。

それにしても、この三匹がきび団子を貰っただけで、命がけて鬼退治を手伝ってくれるというのはすごい心意気です。

ただし、「飼い犬に手を噛まれる」ということわざもあるのでご用心。



C O N T E N T S



- ▶ 巻頭言／中筋 豊通〔一般社団法人島根県出雲地区建設業協会長〕……1
- ▶ 新年のご挨拶
 - ／柴田 亮〔国土交通省出雲河川事務所長〕……3
 - ／松浦 洋介〔出雲労働基準監督署長〕……4
 - ／鬼村 純〔出雲警察署長〕……5
 - ／石田 弘至〔出雲県土整備事務所長〕……6
- ▶ 平成29年度優良工事等表彰／表彰一覧 ……7
- ▶ 優良工事知事表彰を受賞して／吉野 誠二〔㈱ダイニ〕……9
- ▶ 優良工事知事表彰を受賞して
 - ／ 玉木 俊二〔㈱山本工務店〕……10
- ▶ 年男の抱負／新井 龍水〔㈱新井建設〕……11
 - 水口 賢一〔大和建设㈱〕……12
- ▶ 島根県各種功労者表彰に感謝す
 - ／ 福代 明正〔大福工業㈱〕……13
- ▶ 全国建設業労働災害防止大会に参加して
 - ／川角 宣広〔㈹川角建設〕……14
- ▶ 経営研修会に参加して／手銭 弘明〔㈹神門組〕……15
- ▶ インターンシップ体験談 ……16
- ▶ 将来を担う建設人を呼び込むための多彩な取り組み ……19
- ▶ 事務局よりお知らせ ……21
- ▶ 編集後記／今岡 幹晴〔今岡工業㈱〕……22





つちのえ いぬ
「戌戌」 = 『行動が問われる年』

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会
会 長 中 筋 豊 通

明けましておめでとうございます。

平成三十年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

本年の干支は「戌」、十干で言えば「戌」、陰陽五行は「陽の土」となります。

「戌」には、「滅びる」という意味がありますが、「戌戌」を総合的に判断すると、草木などが一度燃えてなくなってしまっている、大きく成長が期待できる年、ということになります。しかし、「陽の土」は、物事が良い方に向けば非常に良い方向に転び、悪い方に向けば悪い方向に転じやすいことを表しています。

つまり、戌戌の年は、自分の行動次第で良くもなれば悪くもなる、慎重に対応しなさい、そんな年ではないでしょうか。

現在、建設業界は稀に見る好景気といわれていますが、それは東北、九州北部など復興・復旧の被災地や、オリンピック・パラリンピック景気に沸く東京に限られ、まさに地域間格差、企業間格差が生じています。

国土交通省は、「働き方改革」「生産性向上」この2本柱で建設産業を魅力ある産業に育てようとしていますが、経営基盤が脆弱な中小建設業にとっては、どちらも簡単にできることではありません。

日本は、豪雨・暴風・台風災害等、いつどこで自然災害が起こるか分かりません。国民の安全・安心のため、防災・減災対策、災害復旧はもちろん、インフラ・住宅等の整備や老朽化への対応を図っていかなければなりません。

そんな中、我々地域の中小建設業は、どう進むべきでしょうか。

まず「賃金を含めた処遇改善」、そして「現場力・企業力の強化」、つまり、長時間労働の是正、週休二日制の導入、ICTの活用、営業力やコスト競争力の強化等々、難しく困難な課題ばかりです。

自らが今までの概念を捨て、真摯に取り組んでいかなければなりません。

多くの課題を解決した時、地域の人々に理解され信頼を得ることができ、それが若年層や女性の入職へつながり、魅力ある建設業への一歩が始まるのではないのでしょうか。

良くもなれば、悪くもなる、それは自らの「行動」にある。

協会員の皆様、ともに頑張っていきましょう。

本年も昨年同様、宜しくお願い申し上げます。

ありがとうございました。



新年のご挨拶



国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所

所長 柴田 亮

明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

斐伊川水系では、いわゆる治水事業の3点セットのうち、志津見ダム、尾原ダム、斐伊川放水路がすでに運用を開始し、昨年は斐伊川放水路に2回の分流を行い、確実にその整備効果を発揮しているところです。引き続き、地域の皆様のご理解とご協力を頂きながら、残る斐伊川本川の堤防整備や大橋川改修、中海・宍道湖の湖岸堤整備を着実に進捗させ、安心・安全な地域づくりに貢献して参ります。

また、平成27年9月の関東・東北地方の水害を契機に、一昨年より社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するため、国、県、市が一体となっていく減災のための取組方針をとりまとめ、大橋川改修等のハード整備を着実に進捗させるとともに、想定しうる最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図を公表し、ハザードマップの作成や防災教育等のソフト対策を関係者と連携・協力して一体的・計画的に進めています。

また、尾原ダム、志津見ダムの水源地域ビジョンの推進や、水辺に賑わいを生み出して持続的な取り組みとして定着させていく「ミズベリング縁(えにし)」の一員としての活動の継続、ガン、ハクチョウ等多くの大型水鳥類が飛来する豊かな水辺環境を保全・再生するとともに、観光や農業と連携して地域の活性化を目指す生態系ネットワーク形成の取り組みなど、こうした様々な取り組みを通じて斐伊川流域の地域振興を目指し、引き続き関係者と連携して取り組んで参ります。

地域防災力の向上を図る上で、災害時の即応性はもちろん、災害に備えるための平時の河川管理は大変重要であり、そこには地元精通し、経験豊富な地元の建設業に携わる皆様の方が不可欠です。我々、河川管理者である出雲河川事務所はもちろん、地元建設企業の皆さまの力は、地域の安全・安心を守るとともに、地域経済を支える「砦」です。

昨年11月には、島根県出雲地区建設業協会、しまね建設産業イメージアップ女子会、島根県出雲県土整備事務所、出雲市等の皆様方とともに、建設業の担い手確保を目的の一つとして、斐伊川放水路周辺を会場に3回目となる「土木の日記念イベント」を開催しました。当日は約600名の方々にご来場いただき、建設機械の展示、斐伊川放水路バスツアー、測量体験等の様々な企画を通じて、建設業のイメージアップにもつながったものと思います。

こうした取り組みも含め、建設業協会の皆様方には若手技術者の育成、女性技術者の登用などを通じて、安全で安心できる地域の持続的な発展に寄与するご活躍を期待しております。

最後に、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲労働基準監督署
署長 松浦 洋介

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の会員の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、労働基準行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年（平成 29 年 11 月末現在）の当署管内における労働災害の発生状況ですが、一昨年より 17 件増加し 213 件となり、残念ながら 2 名の方の尊い命が失われる死亡災害も、発生しています。

昨年（平成 29 年 11 月末現在）建設業におきましては、一昨年より 2 件減少の 33 件となり、死亡災害は発生しておりません。

ただし、もう少し細かな業種で見ますと、土木工事業や木造建築工事業は合わせて 9 件増加の 25 件、反面、その他の建築業等が、11 件減少し 8 件となっており、業種によって増減が顕著に表れる結果となりました。

災害の型で見ますと、33 件中 15 件が墜落・転落災害であり、続いて切れ・こすれ 7 件、激突されの 5 件となっています。

当署管内の建設業において墜落・転落災害は、ここ数年、災害の型でワースト 1 位が続いており、特に昨年は、ほぼ 2 件のうち 1 件が墜落・転落災害という状況です。

墜落・転落災害は、一歩間違えると大きな障害を残す怪我や死亡災害へつながるということを、会員の皆様方は十分ご承知頂いているところで、昨年 12 月から年末年始災害防止強調期間として、これらのことを踏まえ災害防止に取り組み頂いているところではございますが、年も明けましたところで気持ちも新たに、労働災害の防止にご尽力いただきますよう、改めましてお願い申し上げます。

また、現在政府は、国を挙げ「一億総活躍社会」の実現に向けた『働き方改革』を進めているところですが、建設業界におきましても「長時間労働削減、休暇取得促進、女性の躍進、雇用改善」など、これらが重要な課題となっていることは周知の事実でございます。

特に、地域のインフラ整備や住民生活の一役を担う、地場の主要産業である皆様建設業が直面している、長時間労働や少子高齢化・若者の県外流出による労働力人口の減少問題に対し、誰もが健康で安心して活躍し、働き続ける職場・企業環境整備を広めることが、これらの課題をクリアする足掛かりとなり、出雲をはじめとする島根地域の建設業のさらなる発展に、つながるものと期待しております。

そのため、国としましても、金融機関との連携や助成金制度などの充実も含め様々な取り組みを行い、「働き方改革」の浸透を図ってまいりますので、何卒、引き続き「働き方改革」への取組と労働基準行政に対し、皆様のより一層のご理解とご支援を、お願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご多幸を心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲警察署
署長 鬼村 純

明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。会長をはじめ皆様方には、平素から暴力団排除活動や神都出雲の治安対策の推進など、警察業務各般にわたり深いご理解・ご支援を賜っておりますこと厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の島根県内及び出雲警察署管内の治安情勢ですが、治安のバロメーターといわれます刑法犯認知件数はピーク時の3～4割までに減少し、数値的には良い傾向に向かっていますが、凶悪事件や女性・子どもへの声かけ事案をはじめ、暴力団が関与しているであろう特殊詐欺被害が後をたたない状況にあります。

暴力団情勢に目を向けてみますと、全国的には10年前に比べ構成員（含む準構成員）は半減しているものの、依然として六代目山口組と神戸山口組の分裂による対立抗争事件や同じ神戸山口組内での内部対立、更には五代目工藤會による殺人事件など、市民生活を脅かしている状況にあり、警察では市民生活の安全確保に向け、全国警察を挙げて集中取締りを展開し、反社会的勢力の弱体化に努めているところです。

島根県内では、山口組の傘下組織である鳥取県内の暴力団を直属団体とする3団体（構成員：約100名）が県内に事務所を構えています。活動としましては、やはり資金源の確保・獲得にあります。全国的には特殊詐欺への関与の他、多数の飲食店等からみかじめ料名目で現金を脅し取るなどの伝統的な資金源獲得活動はもとより、建設関係では、業者を上手く取り込んで個人の会費名目での現金徴収、公共工事への派遣事業など巧妙な資金獲得活動を展開しております。

こうした情勢の中、出雲警察署管内では、皆様のご協力により長年にわたって、暴力団組事務所の進出を許していません。これも各関係条例の施行と出雲市、各企業、そして警察とが一体となり暴力団排除活動に取り組んでいる結果であり、昨年も新たな施策として、繁華街（代官町及び周辺）対策に乗りだしたところです。皆様方には引き続き

「暴力団追放三ない運動+1」

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない
- 暴力団と交際しない

の実践をお願いします。

出雲警察署では、協会の皆様方と緊密な連携を図りつつ、神都出雲の治安日本一の実現に向け、署員一同、暴力団等反社会的勢力を根絶するための活動を強力に推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

新年のご挨拶



島根県出雲県土整備事務所
所 長 石田 弘至

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方にはすがすがしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでおります社会基盤の整備や公共施設の維持管理に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

昨年は、7月に県内初めての特別警報が発令され、県西部でも災害が発生しましたが、その直後に福岡県や大分県の一部地域では大変な豪雨に見舞われ大災害になりました。一昨年は熊本、鳥取と大きな地震が発生しており、防災対策はますます重要になってきております。

幸いにも出雲県土整備事務所管内では、ここ数年大きな災害が起きておりませんが、昨今の状況を考えると常に備えておく必要があります。

このような中、昨年6月に出雲圏域県管理河川に関する減災対策協議会を設置いたしました。河川整備などハード対策の着実な実施にあわせ、国・県・市が一体となって「人的被害をなくすこと」を目標にソフト対策にも取り組んでまいります。実際の災害時においては、初動の対応が重要であり、事務所として迅速かつ的確な対応ができるよう目指してまいりますので、地元に通じた協会員の皆様のご協力をよろしく申し上げます。

管内の主要事業の状況ですが、3月末までには長年整備を続けてまいりました2路線の街路事業が完了いたします。出雲市駅前から国道9号までの出雲市駅前矢尾線と平田市街地の中町瑞穂大橋線です。両路線とも市街地内の交通円滑化と街づくりに大きく寄与するものと考えております。

さらに、これまで重点的に進めております交通ネットワークの強化に向けた矢尾今市線、出雲三刀屋線などの幹線道路整備や低平地の浸水被害解消を目的とする新内藤川水系・十間川・湯谷川などの河川改修、物流の強化のための出雲河下港整備、農業基盤の強化に必要な山王川整備などを引き続き推進するとともに、耐震化や長寿命化、道路の落石対策にも取り組み、圏域の安全・安心の確保、活力の創出につながる社会基盤の充実を図ってまいります。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

平成29年度(28年度完了) 島根県優良工事等知事表彰

◇ 優秀建設技術者表彰 (優良工事知事表彰)

部門	工種	工 事 名	会社名/代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	(一) 矢尾今市線 大塚工区 防災安全交付金(改築)工事 第5期	大福工業 株式会社 代表取締役 福代 明正	岡田 明久
	河川	新内藤川 県単河川緊急整備工事 上流工区(堤防舗装工)	株式会社 ダイニ 代表取締役 安達 稔	吉野 誠士
		赤川 県単河川緊急整備工事 掘削工(第1期)	株式会社 トガノ建設 代表取締役 梶野 直宏	兒玉 準人
	都市 計画	出雲市駅前矢尾線(3工区) 防災安全交付金(街路)事業 電線共同溝工事	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	清水 渡
建築	建築	島根県営住宅(出雲市牧戸団地1号棟) 建設(建築)工事	山本工務店・昭和開発工業特別共同企業体 代表者 株式会社 山本工務店 代表取締役 山本 恭則	玉木 俊二 角 祐樹
農林 水産	農業 土木	平成27年度 水利施設整備事業(排水対策特別型) 入南南地区 排水路(その5)工事	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	糸川 賢一

◇ 優秀建設技術者表彰 (優良業務知事表彰)

部門	業 務 名	会社名/代表者	管理技術者
地質調査・ 測量・調査	平成28年度 農村地域防災減災事業(調査計画事業) 出雲地区 地すべり防止施設長寿命化計画策定業務(多伎)	島建コンサルタント 株式会社 代表取締役 小田 基明	嘉藤 剛

平成29年度(28年度完了) 島根県優良工事等所長表彰

◇ 優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工 事 名	会社名/代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	(一) 佐田八神線 反辺工区 防災安全交付金 (改築)工事	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 余一良	奥井 正史
		(一) 矢尾今市線 大塚工区 防災安全交付金 (改築)工事 第4期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	内田 貴弘
	河川	赤川 防災安全交付金(広域河川)工事 元宮南橋下部工	出雲土建 株式会社 代表取締役 石飛 裕司	川上 真史
	港湾 空港	河下港 港湾改修工事 第3期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	川上 大
	砂防	五反田谷川 防災安全交付金(通常砂防)工事 第4期	株式会社 三原組 代表取締役 三原 惇志	三原 惇志
農林 水産	農業 土木	平成28年度 農村地域防災減災事業(地すべり 対策事業) 茅原地区 地表水排除工事	株式会社 山崎組 代表取締役 山崎 章弘	玉木 康晴
	森林 土木	平成28年度 林道開設事業(森林管理道) 宮本聖谷線第1工区 道路工事	株式会社 安井組 代表取締役 安井 和広	高野 輝久

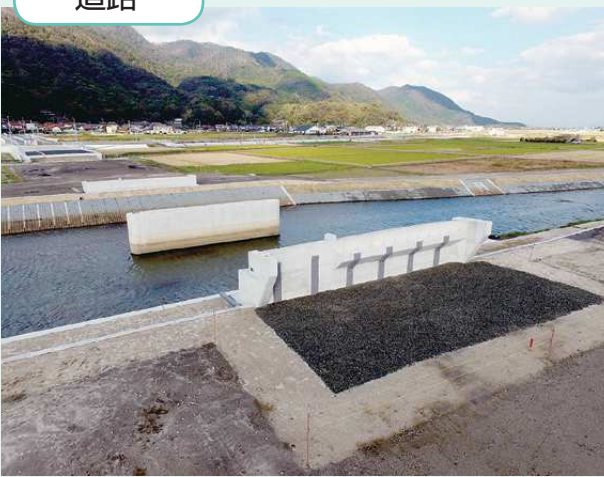
◇ 特別表彰 (所長表彰)

表 彰 理 由	会社名/代表者
長年の道路及び河川の維持管理業務における功績が顕著であるため	株式会社 土井豆組 代表取締役 土井豆 勝磨



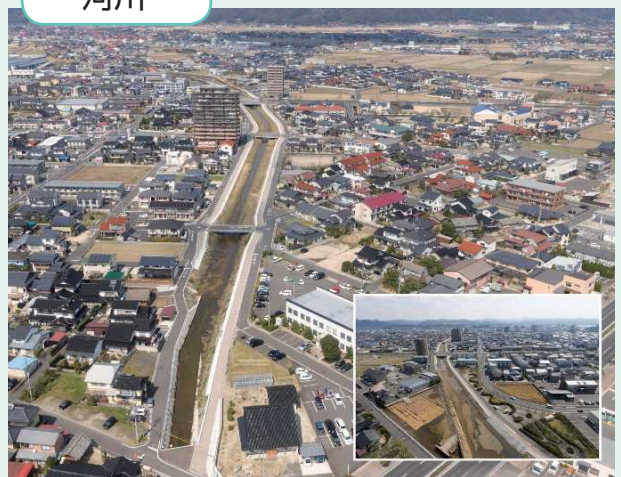
知事表彰受賞工事の紹介

道路



(一) 矢尾今市線 大塚工区 防災安全交付金(改築) 工事
第5期 (大福工業株式会社)

河川



新内藤川 県単河川緊急整備工事 上流工区(堤防舗装工)
(株式会社ダイニ)

河川



赤川 県単河川緊急整備工事 掘削工(第1期)
(株式会社トガノ建設)

都市計画



出雲市駅前矢尾線(3工区) 防災安全交付金(街路) 事業
電線共同溝工事 (株式会社中筋組)

建築



島根県営住宅(出雲市牧戸団地1号棟) 建設(建築) 工事
(山本工務店・昭和開発工業特別共同企業体)

農業土木



平成27年度 水利施設整備事業(排水対策特別型)
入南南地区 排水路(その5) 工事 (株式会社中筋組)



優良工事知事表彰を受賞して

株式会社 ダイニ

吉野 誠士

この度、新内藤川県単河川緊急整備工事上流工区(堤防舗装工)工事に於いて、優良工事知事表彰を頂いたこと、大変光栄に思っております。

この工事は、景観美化及び潤いのある、よりよい生活環境を構築することを目的とし、新内藤川兩岸(延長約 1,600m)を散策路として、景観舗装(ニート舗装)を行う工事でした。

工事着工に先立ち懸案事項として、ニート舗装について工法の決定が重要となりました。多種多様な工法があるなか、着色・耐久性・コスト・制約条件等を検討し、発注者と何度も工法について協議を重ねていく中で、サンプルではイメージがつかめないと考え、現場事務所敷地内にて試験施工を行い、発注者の立会にて、仕上がり面・色調等の確認をしてもらい、工法・材料等を決定しました。

ニート舗装の施工を行っていく中で、2つの大きな問題が発生しました。

1つ目が施工日数です。地元説明会で、地区の皆様と年度内に散策路としての共用開始を約束しており、是が非でも完成させなければなりませんでしたが、施工面積から勘定すると 40 日間必要となり、年内には表層までを完成させることが絶対条件となりました。その対策として、付帯施設における施工班の増員及び、後追いで舗装施工班の増員を行い、当初計画工程の予定通りに表層までを年内に完成させることができました。

もう 1 つが施工時期です。ニート舗装に使用する特殊なバインダーの硬化時間は気温に左右されやすく、また表層面に少しでも水分が浮いた状態では施工ができません。また、骨材(セラミック・硬質天然石)の採取にも制約がありました。実作業は 1 月～3 月の冬期となり、天気予報にない突然の降雨や降雪にあい、段取り替えの連続でなかなか思うように工程が進捗していきませんでした。対策として、下請業者と検討を重ね、二班体制を四班体制とし、天気との勝負の中、無事故・無災害で完成することができました。

この他にも様々な課題が発生しましたが、発注者や協力会社、地元の皆様、会社の方々に多大なご協力を頂き、無事に共用を開始することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。皆様本当にありがとうございました。今回の貴重な経験を糧にし、様々な現場状況や制約に対応していくためにも、新工法や新技術・新材料についての情報収集を行い、講習会などへ積極的に参加することにより知識を増やし、これからの仕事へ活用していきたいと思っております。





優良工事知事表彰を受賞して

株式会社 山本工務店

玉木 俊二

この度、鳥根県営住宅(出雲市牧戸団地1号棟)建設(建築)工事に於いて、優良工事知事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

この工事は、今回の建設地に隣接した場所にある県営住宅の老朽化に伴う建て替え事業により、入札参加申請時の技術提案を評価して頂く総合評価方式(標準型)で発注され、昭和開発工業株式会社様との特別共同企業体で受注した工事であります。

今回工事の特徴は、敷地周囲の道路幅員が狭い事。更に狭い敷地の中で住棟(RC造、4階建)・倉庫棟(RC造、平屋建)・3棟の駐輪場棟(RC造、平屋建)を建設することでした。

今回の住棟建物は、敷地GLから深さ3m下の建物支持地盤まで掘削した後、ラップル基礎の上に建物を築造する設計でした。狭い敷地の中で深さ3mのつぼ掘り施工は、掘削用重機の作業手順上施工が困難であり、埋戻し土を仮置きするスペースも無い事から発注者と協議を行った結果、基礎掘削方法をつぼ掘りから総掘りに変更し、埋戻し土も掘削土中の流用土で設計されていましたが、現地土が埋戻しに適さない含水率の高い粘性土であった為、全て購入土(砂質土)に変更となりました。

基礎掘削方法の変更に伴い、基礎工事期間中の降雨等に依る掘削法面の崩壊防止対策について発注者と協議を行い、掘削法面全面へのブルーシート張りと建物から敷地境界までの距離が最も少ない、敷地東側仮囲い附近及び建物北側のクレーン車設置附近への土留用として、大型土嚢2段積設置の施工提案を行い、建物の埋戻し作業が完了するまでの期間中、掘削法面に於けるクラック発生の有無を日々点検して、掘削床の作業員に対する土砂崩壊災害防止に努めました。

敷地が狭い事により躯体コンクリート打設用ポンプ車を2台設置することが出来ない為、各階共2工区に分けての躯体コンクリート打設となり、次工程である各種内外装仕上げ工事との工程調整に大変苦労をしました。

又、今回工事は、上記基礎掘削方法の変更、内装仕上げの変更、外構レイアウト変更とかなりの変更が有りました。各変更工事を含めた施工工事全般に対する発注者との協議を行う際に、私の方から様々な技術提案を行ったことが発注者からの高評価を頂いた要因の一つであると思います。

我々工事施工管理に従事する建設技術者としての役割は、ただ設計図通りに施工するのではなく、発注者に対して様々な技術提案を行い、建物の長寿命化が実証出来る高品質な成果品を、発注者に提供する為の、更なる専門知識の習得と若年技術者への技術の継承であると思います。

今後もこの賞を頂いた事を励みに、現場特有の施工条件に対応できる技術力と提案力を身に付けて行きたいと思っております。

最後に今回の受賞は、ご指導頂きました鳥根県建築住宅課職員並びに出雲県土整備事務所建築課職員の皆様をはじめ地元の皆様、各協力業者の皆様のご協力のお陰であると心より深く感謝いたしております。





年男の抱負

株式会社 新井建設
代表取締役 新井 龍水



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には健やかに輝ける年をお迎えのことと思います。

今年私は戌年生まれの年男、早いもので還暦を迎える年になりました。昨年の酉は「商売繁盛・収穫」の年と言われていましたが、戌は「守りの年」と言われています。しかし商売ですから守っただけでは商売になりません。アフターフォロー、リスクヘッジをすることで既存のお客様を守り、またそれがお客様からの信頼となり、商売へと繋がっていく事と思います。

ここ近年日本各地における地震、台風、大雪、豪雨などの自然災害が多発しておりますが、地方経済の落ち込みによる建設業界の景気の低迷、建設業従業者の高齢化による人手不足などの不安材料は多々ありますが、地方経済の基幹産業として社会資本の維持管理等に微力ながら、お役に立てるように尽力したいと思います。

戌年は、阿弥陀如来が守護本尊で「極楽浄土に導き救済の力、滅罪、敬愛」の利益があると言われています。ただ利益を待つだけでなく、戌年には「勤勉で努力」という意味もありますので、ご利益を自ら手繰り寄せるよう努力していきましょう。

最後になりましたが、出雲地区建設業協会の益々のご発展、会員企業の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。





年男の抱負

大和建设 株式会社
代表取締役 水口 賢一



謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

旧年中はひとかたならぬお引き立てにあずかり誠にありがとうございました。

皆様のおかげをもちまして弊社も社員一同よい新年を迎えましたこと深く感謝申し上げます。

さて、60歳を迎えるにあたり、まだまだ遠い未来のことと思っていましたが、5回目の年男となりました。今も気持ちは若い頃と何も変わらないと思っている不思議な自分ですが、体幹は積年には勝てなくなりました。

しかし、時間を巻き戻すことはできない、新たなスタートを切ること「いまが出发点」と考え、何事にも初心を忘れずに『人生60歳からが面白いんだ』一步一步進んで行きたいと思います。

私は、1985年9月大福工業㈱に入社し、現場管理者として諸先輩方々から叱咤激励に、たくさんのご厚情をいただき、育てていただいたこと深く感謝しております。

2003年9月からは大和建设㈱にお世話になり、月日が経つのも早いもので15年目を迎えようとしています。苦楽を共にしてきた社員には感謝の気持ちを忘れずに、これからも切磋琢磨し、スキルを高めていきたいと考えています。

さて、【宥坐の器】。この器は空のときは傾き、ほどほどに水を入れると垂直になり、水をいっぱいにするとひっくり返るそうです。事業経営においても、自身の力以上の事業をすると、どうしても無理をするため、健康上、家庭上、社会上、せっかく得たものをすべて失ってしまうことになりかねないと書いてあります。「徳づくりの経営テキスト」からこの教えを守り、自然の法則を遵守し、その範囲において自助自立の精神で努力してまいりたいと思います。

弊社の今年の目標は【安全】です。社員と共に安全管理を怠らず社会に貢献できるように努め、安全がすべてに勝るとの考えを強力に推進してまいります。

私のゴルフの練習法

1. グリップ【G】は1インチ短く握ります。何故か、クラブがゆっくり振れてミート率がアップします。
2. フルスイングではなく、9時から3時までのビジネストゾーンというスイングを30球ほどします。何故か、インパクトゾーンが理解できます。
3. パターの距離感は、バックスイング【B】とフォロースルー【F】の幅を決めてください。【B】を15cm【F】を15cmにした時、その日の練習グリーンの距離感が把握出来ます。何故か、それに集中できれば、頭が動かなくなり、体がスエーしません。インパクトゾーンの後にカップを見る癖がつかます。【B】スイングも【F】フォローも同じリズムでね。
4. ゴルフは上記の通りインパクトゾーンが一番大切だと理解してください。【G】の握り方【B】スイング【F】スルーは個性があって良いと考えてください。

最後になりましたが、出雲地区建設業協会の益々のご発展と、会員の皆様にはワンダフルな一年になりますようご祈念申し上げます。



島根県各種功労者表彰に感謝す

大福工業 株式会社

代表取締役 福代 明正

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

私事ではありますが、平成29年度の島根県各種功労者表彰の土木部門にて、11月22日に表彰していただきました。推薦をいただきました建設業協会の皆様方を始め、多くの方々にご支援ご協力を賜ったおかげと、感謝いたしております。誠にありがとうございました。

今後もこの榮譽に恥じないよう、全力で建設業発展のために尽くしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

協会支部の理事に就任しました20年程前（平成9年）は、公共投資が今のように削減されるなどとは考えもしていませんでした。仕事をすれば、“明日は来る”程度の思いでした。その後、そのピークが過ぎ、あれよあれよという間に建設投資はピークの1/3にまで減り続け、建設業協会の会員も半減してしまいました。

今、私達建設業界に求められているのは、社会資本整備のみならず、重大災害時のライフラインの確保から日常の生活基盤の維持・管理まで多様化しつつあると思っております。私達協会員が互いに力を出し合い、足りない所を補完しつつ、この出雲の地を住みよい安心安全な町にしていきたいと思っております。出雲が益々発展し続けることを祈念して挨拶とします。

ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。





全国建設業労働災害防止大会 に参加して



安全委員会

川角 宣広〔㈱川角建設〕

私たち安全委員は、平成29年10月5日、6日に北海道札幌市にある北海道立総合体育センター（北海きたえーる）で行われた「第54回 全国建設業労働災害防止大会 in 札幌」に参加して来ました。札幌空港に到着し外に出ると10月初旬とは思えない位の寒さで北海道に来たなーと感じましたが、翌日からの大会両日は、天候に恵まれ上着は必要ありませんでした。

開会式は、全国建設業労働災害防止協会 錢高会長の挨拶に始まり、来賓の挨拶、歓迎のことばと続き、安全衛生表彰では、私も皆様のおかげで功績賞として表彰状と立派な盾をいただき大変ありがとうございました。

全国の労働災害は、企業と労働者の安全確保の努力によって、死亡災害、休業4日以上災害ともに確実に減ってきていますが、直面する技能労働者の不足や高齢化、将来の担い手確保・育成などの問題から、更なる安全衛生管理活動の充実を図り、労働災害を根絶していく必要があります。このため、経営トップの強いリーダーシップの下、リスクアセスメントをはじめとし、あらゆる安全衛生活動を計画的かつ継続的に進め、現場で働く一人ひとりが、安全を最優先する「安全文化」を定着させることが重要となることをこの大会に参加して改めて考えさせられました。

また、昭和女子大学理事長・総長の坂東真理子氏から「日本人の品格～自分を磨く～」と題した講演を聞きました。社会人の品格及び日本人の品格を磨くことは、企業の為ではなく自分個人の為でもなく、次世代の人の為に良いインフラストックを残そうという大変興味深い話でした。この中でも、企業トップの責任について話がありました。改めてリーダーの重要性を感じ、労働安全は出雲地区がリーダーであるよう、「安全は出雲から」を合言葉に安全衛生活動に取り組んで行けるよう一層努力をしたいと思ったところです。

この全国大会では、北海道の新鮮な魚介類を堪能し、また雄大な自然を満喫しリフレッシュすることも出来ました。本当にありがとうございました。





経営研修会に参加して

経営改善研究委員会

手銭 弘明〔宍神門組〕

平成29年度の経営研修会は、「働き方改革と労働時間管理について」佐藤社会保険労務士事務所 社会保険労務士 佐藤良一氏と「建設労働を取り巻く情勢と中小建設業の経営課題について」株式会社 社長室 代表取締役 井脇 寛氏のお二人にご講演頂きました。

働き方改革においては、建設業における働き方改革実行計画のポイント・建設業界の現状と今後の取り組みについて、わかりやすくご解説頂きました。現在の人口増加・減少率のままでは、2050年には総人口9,000万人前後、2105年には4,500万人まで減少するといわれています。建設業就業者数は、55歳以上が約34%、29歳以下が約10%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題であり、若年入職者の確保・育成が喫緊の課題といまさらながら改めて痛感いたしました。中小・小規模事業者にとって、現状を維持しながら、将来の課題に取り組むという、まさに働き方改革とは真逆の方向に陥らないとも限らない状況にあっては、いままでの固定観念に囚われず、社会環境全体が柔軟に変化していくことを望まずにはられません。

続いて、中小建設業の経営課題については労働情勢・建設業の課題・島根県の現況・経営課題と具体的にご講演頂きました。島根県の現況として、若手採用困難・社員の高齢化・技術者不足・技能者不足・作業員不足を挙げておられました。経営の課題としては、受注の確保と拡大・収益性の改善・工事管理の徹底・生産性の拡大・人の確保を挙げられ、どれもこれも正面から取り組まねばならないものであります。講演の限られた時間の中で、その手法等示唆して頂きました。

日々日常業務に追われる身として、方向性を立ち止まって考える、有意義な場となりました。



インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年、出雲農林高等学校、出雲工業高等学校、東部高等技術校の生徒をインターンシップ(現場実習)事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。



インターンシップを通して

島根県立出雲工業高等学校

建築科2年 神西 結子

11月に行われた3日間のインターンシップで、私はキュービックホームに実習に行かせていただきました。こちらの会社は、学校に企業説明に来られ、話を聞いたときからずっと興味があり、見学に行ってみたく思っていた会社でした。主に民間の住宅の仕事を行っておられ、住宅の設計に興味がある私にとって、とても合っている会社と思い、学校と相談しキュービックホームに行かせていただくことになりました。

実習はどれも楽しく、充実していました。朝の掃除から始まり、現場見学、座学など様々な事を体験させていただきました。その中で感想を求められることが多くありました。私は頭で感じていることをすぐに言葉にするのが苦手なので、これには苦労しました。社会に出たら、このような機会がたくさんあると思うので、普段から授業などで意見をまとめ、発表する練習をしておかなければいけないと痛切に感じ、これから取り組んでいきたいと思いました。また、「すごい」「面白い」などの感想だけでは様々な年代の方とまともに話すことができないことも強く感じました。

社員の方の中に、高校を卒業して会社に入り活躍されている方がおられました。その姿を見て高校でしっかり学習や人格形成に励むことで、高校を卒業してすぐに働いても、活躍できることが分かり、進路を決める参考になりました。

今回の体験を生かして、進路について、働くことについて考えていくきっかけとなりました。来年の春には立派な社会人になれるよう努力します。そして、このような貴重な体験をさせていただいた企業の方々に感謝いたします。



インターンシップを終えて

島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 小村 和史

高校でのインターンシップは建設業を希望し、中筋組さんにお世話になりました。当然ですが、自分たちが勉強してきたことよりもまだ習っていないことが多く、たくさんの新しいことを体験させていただきました。使ったことのない機器の説明の他、現場や工場の見学など、普段の学習や生活の中では分からないことをたくさん学ぶことができました。

現場見学では、それぞれの現場で、ここはこのようなことをやっている、あの現場ではこんな機械を使っているなど、丁寧に分かり易く教えてもらい、仕事の大変さとやりがいがとても良く伝わってきました。

現場に出た時は、測量機器を使って盛土の丁張りをさせてもらいました。初めての作業だったので何も分からない状態でしたが、一から詳しく教えてもらい、スムーズとは言い難いですが、最後までやり遂げることができたので達成感を感じることができました。印象深かったのは、GPS機能の付いたバックホウのことでした。運転席にあるモニターを見て、どこまで掘ればよいのかが分かるということで、すごく便利だなと思いました。この先もこのように機械はどんどん進歩していくと思うので、作業効率なども上がっていくのかなと思いました。

コンクリートの製造工場で製造方法を教えてもらった時は、普段目にすることの多いコンクリートでも、製造の過程を見ることはなかなかできないので、とても新鮮で興味深く見学することができました。

最終日、現場で測量を行っている時、私は標尺の読み間違いをしてしまいました。なぜ間違えたのか、アドバイスを受けながらでしたが、考えて理解することができたのでスッキリしました。しかし、野帳に書いたら書き間違えていないか見直すことなどを徹底し、復習をしてやり方を忘れないようにしたいと思いました。

この一週間は、色々なものを見させてもらったり、考えたりすることができたとても貴重な期間でした。今後の実習や学校生活で、このインターンシップで学んだことを活かせるように心掛けます。お忙しい中ありがとうございました。



インターンシップを体験して

島根県立東部高等技術校

住環境・土木科 2年 長岡 丈瑠

今回インターンシップということで、6月5日から6月9日までの5日間、株式会社フクダ様にお世話になりました。実際に現場で丁張を掛けたり、測量やCADに触れさせていただいたりしました。普段工事現場を目にすることはないので、いろいろな事が学べた良い機会になりました。

インターンシップの5日間、話を聞く姿勢を心がけながら取り組みました。現場の担当者の方はコミュニケーション能力がとても大切だとおっしゃいました。実際に現場では作業員の方も多く、重機の音のする中、きちんとしたコミュニケーションがとれないと怪我や事故につながる恐れがあり、自分自身のコミュニケーション能力を高めることが必要だと感じました。また、CADや測量に触れさせていただいた際に、私はまだ思うように扱うことができませんでした。さらに深く知識を身に付ける必要があることを感じました。

就職するまでにこのような機会は少ないので、今回のインターンシップはとても貴重な経験になりました。学んだことを今後活かす努力をしていきます。5日間たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

インターンシップ事業について

島根県東部高等技術校 住環境・土木科

東部高等技術校 住環境・土木科では、土木全般にわたる知識と技術の習得を目指し、座学と実習を併せた職業訓練を日々行っています。

その中でも、出雲地区建設業協会や企業にご協力いただいているインターンシップ事業は、実際の現場を体験させていただき、高度な技術や知識、理解を深め、施工管理技術者としての使命感や誇りを膨らませるきっかけとなっています。また、実際会社で働くことで、コミュニケーション能力の向上や協調性を養うなど社会人として第一歩につながっており、訓練生たちにとって有意義な体験になっています。

今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

高校生のものづくり体験学習

青年部会では、出雲農林高校環境科学科生徒に建設産業への理解を深めてもらい、将来、建設業への門戸をたたいてもらうことを期待して様々な取り組みを行っています。

今回紹介する事業は、生徒に、ものづくりの魅力や役割をより深く理解してもらうために、建築物の発案から完成までの一連の作業を実際に体験してもらった事業です。

5月下旬から7月下旬までの2か月間は、“何をつくろう、そのデザインは、経費はどのくらい”など、生徒自らが考え、母校に残したい素晴らしいアイデアが生まれました。9月から土木・建築にかかわる施工に着手し、去る11月22日、完成引渡し式を迎えることができ、生徒たちには味わったことのない達成感を感じてくれたことと思います。

この事業は、青年部会創立20周年記念事業の一環として行いましたが、学校はもとより各方面から感謝と高い評価をいただき、青年部会の大きな成果となりました。事業の様子を紹介します。



〈農林高校生と一緒に作ったモーリン休憩所〉

将来を担う建設人

高校生が肌で感じた建設業



土木の日 記念イベント

毎年11月18日は「土木の日」です。当協会では、小学生とその家族を対象に建設業の魅力をアピールするために、「土木の日」を記念するイベントを開催しています。

今年が3回目となったイベントは、11月25日(土)、斐伊川放水路周辺を会場に、小学生の親子連れなど約600名の方にご来場いただき、大盛況のイベントが開催できました。

「バックホウによる飴玉すくい」、「ミニドローンの操縦」、「生コンで作る手形」、「測量体験」、「建設機械の搭乗体験」など土木にちなんだ多彩な催しで子供たちに遊びを通して土木のことを知ってもらうことができました。

このイベントを通じて、地域の方々には建設業の重要性を知っていただき、参加した子供たちには建設業に興味を持ち、「将来建設関係の仕事に就きたい」と思う気持ちが少しでも多く生まれてくれたら嬉しく思います。



を呼び込むための多彩な取り組み

遊びで体験 土木のこと



事務局よりお知らせ

あけましておめでとうございます！本年もよろしくお祈りいたします！

Have A Happy New Year

2018

新しい年がスタートしました！

皆様にとって笑顔いっぱいの良い年になりますようお祈りいたします☆

さて、出雲地区建設業協会は今年、創立 70 周年を迎えます。

更に、今年は 2 年に一度の旅行の年でもあります。皆様の心にいつまでも良い思い出として残るようお手伝いさせていただきたいと思ひます。

本年も、事務局員一同、会員の皆様のお役に立てるよう一生懸命頑張ります！

一年間の主な行事予定について

以下の行事を予定しております。多数ご参加いただきます様お祈りいたします。

- ・ 総会（出雲地区建設業協会・協同組合・出雲建設会館） 4月頃
- ・ 総会（建災防出雲分会） 6月頃
- ・ 安全研修会（市協会と共催） 9月頃
- ・ 親睦旅行 9月頃
- ・ 経営関係研修会 11月頃
- ・ 土木の日記念イベント 11月頃
- ・ 現場代理人安全管理研修会 2月頃

建災防出雲分会から

建災防本部の安全用品は、出雲分会で注文承ります。

注文用紙は「建災防」のホームページよりダウンロード出来ます。

<http://www.kensaibou.or.jp/>

建災防

検索

会社名、担当者、連絡先等をご記入いただき、FAX等が出雲分会まで！

最短1週間ほどで商品が到着。

出雲分会へ取りに来られる場合送料無料です。（会社へ直送の場合は送料がかかります。）

出雲分会では多数の安全DVDも取り揃えております。社内の安全教育等にお役立てください！

建災防島根県支部主催の各種技能・特別・安全教育の受付は2月中旬ごろ開始する予定です。文書及びホームページにてご案内します。

助成金事業を行っています

「島根県出雲建設事業協同組合」では、平成29年度より助成金事業を行っています。

昨年度、多数申請をいただきましたので、平成30年度も引き続き募集をします！

- ・ 建災防島根県支部主催の講習（一部を除く）受講料を全額助成
- ・ 特殊免許（中型限定解除・大型特殊）取得料の一部を助成

平成30年度は、5月頃募集案内予定です！

申請方法はとても簡単です！是非ご活用下さい！



編 集 後 記

平成30年がスタートした。私が中学生のときに始まった平成時代だが、あらためて思えばあっという間の30年だったように感じる。平成時代は、よく言われる「失われた20年」の真只中であつた。戦後の高度成長から続く右肩上がりの経済、そして人口の増加、生産年齢人口もずっと増加していたものが、バブル景気が崩壊したとともに、人口減少、少子化・高齢化社会へと数字上では全てが下降していく社会へと変貌してしまつた。

建設業界においても、この20年近くの間には公共事業は半分または3分の1になつたといわれる。今後激増していくことは考えにくく、「新設」から「維持」へと移行してはいくが、特に地方は、厳しい状況が続いていくのではないだろうか。また、さらに業界のデジタル化は進展していくものと思われる。昔、人力作業が機械化され、工事進捗が格段にアップしたように、いまはi-Construction化により、生産性向上アップへと必ず進展していき無人化が当たり前の時代も近い将来くると思う。

奇しくも、今年「明治150年」である。150数年前の日本は他国からの侵略を防ぐ為、既成の概念からの脱却を図り、自主自立の国家を確立したのが明治維新であつた。紆余曲折はあつたが、それによって現在の日本の礎がある。そして、明治以前も今もそうであるように、いつの時代も拡大上昇していく社会が永遠に継続していくことはないのであり、必ず停滞、閉塞が訪れる。その繰り返しである。その時々において当事者たちが、変化を恐れずに果敢にチャレンジしてきたからこそ新しい時代の扉が開いたのであり、現状満足からは何も生まれないのではないだろうか。

新しい年が始まり、清々しい気持ちと同時に、身の引き締まる思い、そして新しい価値創造への挑戦意欲に満ちている昨今であり、いままでより「進化」できる一年になるよう精進していきたいものである。

一般社団法人
編集・発行人 島根県出雲地区建設業協会
経営改善研究委員会